

「家庭の省エネアンケート」回答結果

愛媛県下5イベント、述べ8日間でアンケート回答数488件に対して有効回答数は486件であった。昨年度(391件)と比較して、95件多く(24%上乘せ)より多くのアンケートを回収することができた。

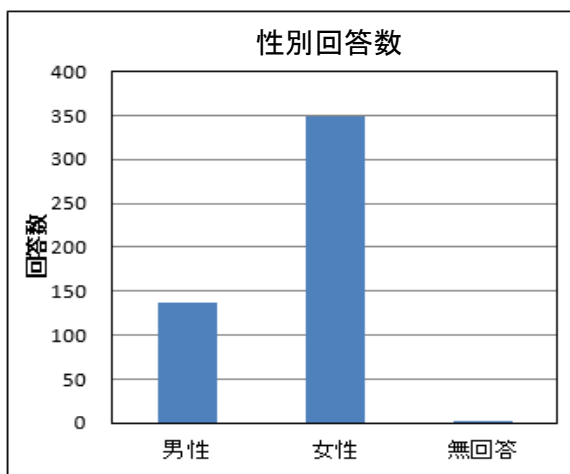


図-1 性別回答数

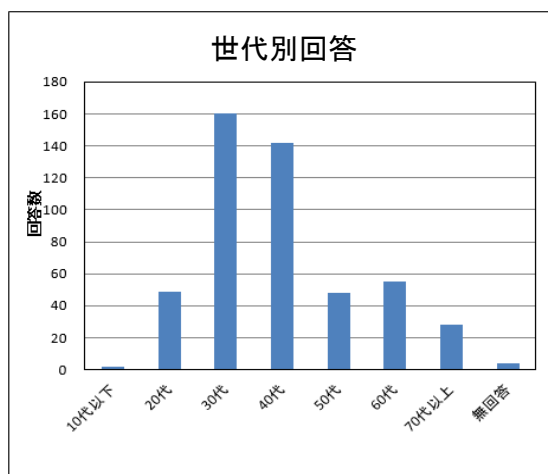


図-2 世代別回答数

性別回答数は、全体に占める割合が男性が28%(137件)、女性が72%(349件)と約1/3が男性、約2/3が女性であった。昨年度は、約1/4が男性、約3/4が女性であったので今年度の方が男性比率が高い結果となった。

世代別回答数については、「30歳代」が約40%と最も多く、次いで40歳代が約30%となった。昨年度と比較して、40歳代・20歳代・60歳代の世代でより多くのアンケートを回収することができた。

表-1 省エネ対策取組内容

No.	機器	内容
1	冷蔵庫	設定温度を強から中にする
2		物を詰め込みすぎないようにする
3	照明器具	白熱電球をLED電球に取り替える
4	テレビ	画面は明るすぎないように調節する
5	エアコン	夏の冷房時の室温は28℃、冬の暖房時の室温は20℃を目安にする
6		フィルターを月に1回、2回清掃する
7	風呂給湯器	間隔をあけずに入浴する
8		シャワー(温水)は流したままにしない
9	電気ポット	長時間使用しないときは電気プラグを抜く
10	電気カーペット	設定温度は低めにする
11	石油ファンヒーター	室温は20℃を目安にする
12		着るものなどで工夫して使用時間を減らす
13	ガスファンヒーター	室温は20℃を目安にする
14		寝る前や出掛けるときは早めにOFFにする
15	自動車	発進時のアクセルはゆっくり踏み込む
16		走行中はできるだけ速度を一定に保つ
17		減速時は早めのアクセルオフ(エンジンプレーキを活用)

表-1のそれぞれの項目について、
 A.既に実施している
 B.これから実施したいと思う
 C.これからも実施するのは難しい
 D.持っていない
 という回答をして頂いた。

表-2 省エネ効果算出根拠

項目	CO2排出係数(単位)	原油換算係数(単位)	金額換算係数(単位)
電気	0.570kg/kWh	0.252kg/kWh	27円/kWh
ガス	2.277kg/m ³	1.16L/m ³	171円/m ³
灯油	2.488kg/L	0.947L/L	100円/L
ガソリン	2.322kg/L	0.893L/L	156円/L
水道	0	0	228円/m ³

表-3 努力削減量と見なし削減量の定義

事項	定義	単位
努力削減量	A 既に実施しているに回答した場合の削減量	kg-CO2/年/人
見なし削減量	B これから実施したいと思うに回答した場合の削減量	kg-CO2/年/人

上記の表-2、表-3に基づき、CO2の削減効果を計算した。

表-2の換算係数は、家庭の省エネ百科(発行：資源エネルギー庁、制作：省エネルギーセンター、2014.03)を引用している。

表-4 普及啓発による削減効果

	削減効果			
	削減量(CO2-kg)	削減経費(円)	原油換算量(L)	発熱量(J)
努力削減量	226,225	14,023,240	96,179	3.73E+12
見なし削減量	115,847	6,756,240	49,765	1.93E+12
合計	342,071	20,779,480	145,944	5.66E+12

※3.88E+07(原油量から発熱量を算出する際の係数)

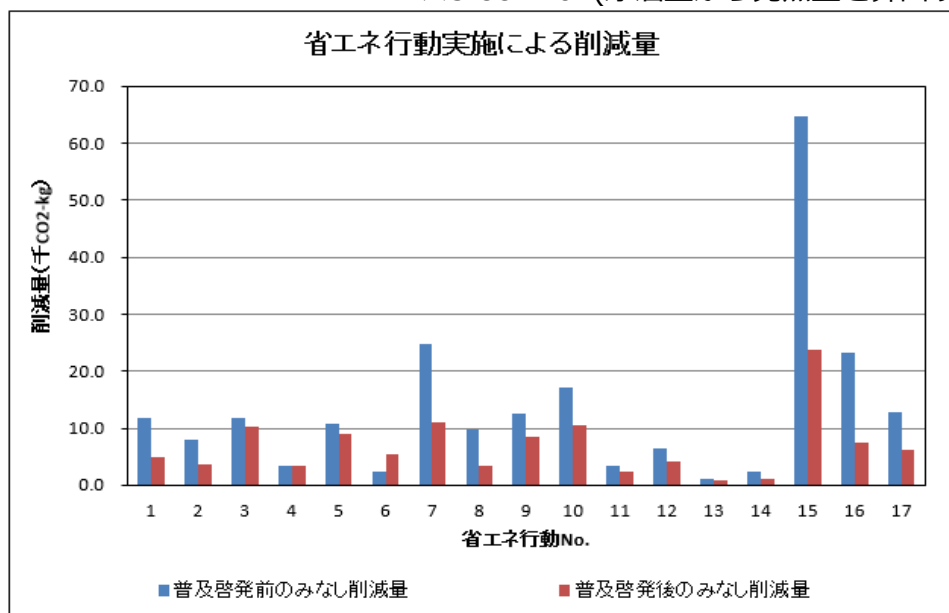


図-3 省エネ行動実施による削減量

表-4及び図-3に、今回のアンケートを使用した普及啓発による温室効果ガスの削減量を示す。CO2換算で努力削減量が226,225CO2-kg、見なし削減量が115,847CO2-kg、合計が342,072CO2-kgという結果になり、一人あたりの見なし削減量が238CO2-kgとなった。

また、削減経費に換算すると、努力削減量が14,023,240円、見なし削減量が6,756,240円、合計が20,779,480円という結果になった。

前回よりもアンケート件数が24%程度多く、削減効果(削減量比較)は42%程度の増加が見られた。これは省エネに対する意識向上のあらわれであると推察できる。

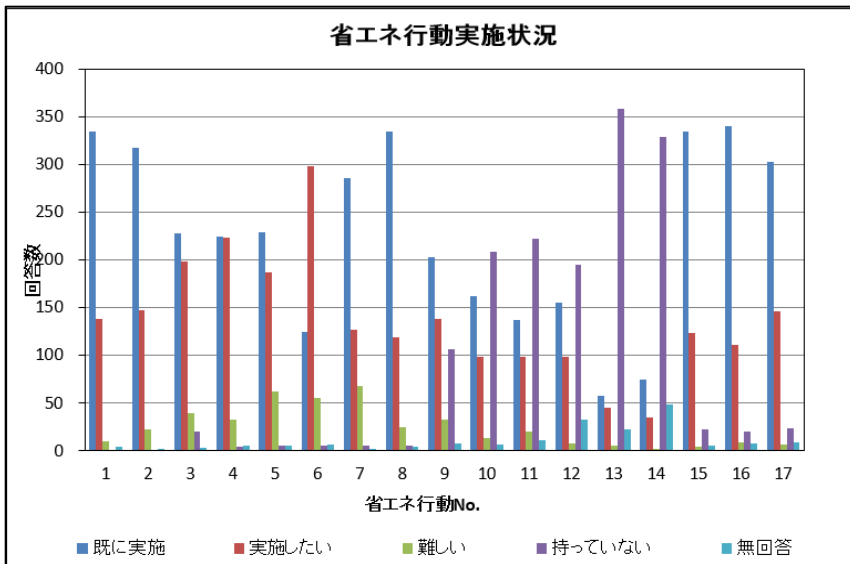


図-4 省エネ行動実施状況

省エネ行動の実施状況として、概ね「既の実施」「実施したい」が多かった。

機器別に見ると「1.2冷蔵庫」「7.8風呂給湯器」「15.16.17自動車」については「既の実施」の回答数が多く、これらの機器に関しては既に省エネ意識が高まっていることが伺える。

「3.照明器具」「4.テレビ」「5.6エアコン」では「実施したい」の回答の割合が多く、これらの機器においてはこれから省エネ行動が促進され、削減量が増えていくことが期待される。

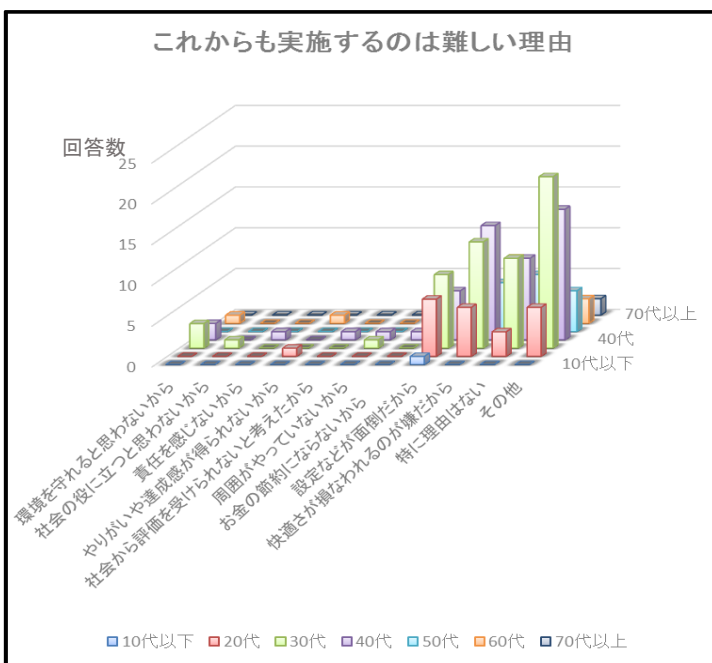


図-5 これからも実施するのは難しい理由

これからも省エネ行動を実施するのは難しいと回答したうち、ほとんどの年代で「設定などが面倒だから」「快適さが損なわれるのが嫌だから」が多く、省エネ行動をすることによって自身のライフスタイルが変革する(快適さが損なわれる)との意識が潜在していることが分かった。

そのほか、「特に理由はない」「その他」という回答があった。「その他」の中には、
 ・主人の帰りが遅い(風呂)・省エネ機器に買い替えるお金がない・生活パターンが今と変わってしまう・エンジンブレーキでエンストしたくない・家族の生活リズムがバラバラ等の回答があった。